

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)

I 2022 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022 年度大学評価結果総評】(参考)

SSI は、2024 年度に実施する抜本的なカリキュラム改革にむけて、カリキュラム委員会を立ち上げ、関連部局と丁寧連携しながら準備を進めている。2022 年度の「重点目標」は新カリキュラムポリシーの策定である。この作業が、これまでの教育目標やカリキュラム体系の課題、学生の達成度を検証したうえで進められることの重要性は、「2021 年度自己点検・評価報告書」ですでに指摘されておりである。これを受けて、学生へ独自のアンケートを実施したことは高く評価できる。2022 年度は、このアンケート結果を踏まえて、現時点での学生のニーズと将来求められることといった、中・長期的展望のバランスを備えた新たなカリキュラムポリシーの具体化がなされるであろう。

本インスティテュートは、SSI 生に対して修学支援の面でもきめ細かな対応を行っており、今後も独自の修学支援アドバイザー制度を検討しており大いに評価できるが、他方で教職員の負担が過剰になる恐れも否めない。COVID-19 による厳しい行動制限を経て日常生活・学習環境の変化を経験するなか、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」の影響もあり、一般的にも「スポーツの力」は再認識された。文武両道を目指し直向きに精進する SSI 生の姿は、一般の学生にとって良い刺激となり、SSI 生にとっても期待と応援を受ける好循環が生じる可能性がある。その意味で SSI 生(学生アスリート)について、もっと学内での認知度や関心を高め、学生同士が自主的かつ組織的に支援する取り組みを関連学部や学生センターなどと連携して考えてもよいだろう。それによって教職員の負担増を抑えつつ、部活外での交流が薄いと指摘された SSI 生と一般学生との交流を促し、互いから学ぶ機会を得る環境作りにも期待したい。

【2022 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

SSI では、2023 年度をもって、発足当時から 19 年間続けてきたカリキュラムを終了し、2024 年度から新しいカリキュラムで実施する。この間、社会情勢や学生のニーズに合わせて、柔軟にマイナーチェンジを行う努力をしてきた。今回新カリキュラム策定にあたり、その柱となるカリキュラムポリシーを検討した結果、現行のポリシーを基軸とし、それに一部修正及び加筆することで、運営委員会の承認を得ることができた。その内容は、人文・社会科学系と自然科学系の科目をバランスよく配備して、学生がより能動的に学べる(アクティブラーニング)教育方法について工夫した。具体的には、ディスカッションやディベートを行いやすい「ゼミ形式の科目」を新設する予定である。また必修科目である基礎科目の中に、SSI 生全員が受講する「スポーツ学入門」を新設して、教育課程及び教育内容の「初年時教育」を充実させる。本科目では、SSI が目指す方向や望む人物像、及び学習の到達点などについて、全 SSI 生が同じ内容で共有できる仕組みを取り入れる予定である(開講キャンパス、曜日、時限に影響されない「フルオンデマンド」を計画している)。

SSI 生は本インスティテュートに参画している 10 学部部に所属しており、約 900 名を超える規模となっている。コロナ禍においても、感染予防対策を講じ、それぞれの活動に励んできた。今春には WBC が開催され、2020 東京オリンピックに続き「スポーツの力」によって人々が励まされた。法政大学の学生全体からすれば、SSI 生は非常に少ないが、その活躍を SNS やホームページ、スポーツ法政新聞などと連携して発信していく工夫を検討していきたい。また学生センターと協同して、試合の応援ツアーやメディアラウンジなどで、SSI 生が所属するクラブ紹介の企画などを実施することで、一般学生と SSI 生の交流を図ることに努めたい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.1①学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.1②学生の学習指導を適切に行っていますか。	はい
1.1③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。	はい
1.1④それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	はい
1.1⑤シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 2022年度 SSI 履修の手引き（HONDANA） ● 2022年度 SSI ガイダンス（オンライン：リアルタイムとオンデマンド） https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/ ● 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会及びその議事録 ➢ 審議事項（8）SSI ガイダンスの実施について ● 2022年度 SSI 生共通履修ガイダンス（オンデマンド動画） https://hosei-ac-jp.zoom.us/rec/share/lqf6PEFnZz8y6g-k1HRy0yGFLRVNvieouCS515qEiUo-YLgqTMs7NgKjqMHXCxdt.8qIvCmSQ8KZ9bz2e パスコード：#G17fzL? ● 2022年度履修のポイント（PDF） ● 法政大学 Web シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2023&gakubueng=AYA&t_mode=pc ● 2022年度第2回 SSI 運営委員会及びカリキュラム委員会資料（9）及びその議事録 ➢ 2021年度秋学期 GPCA 集計結果について（SSI） ➢ 2021年度卒業生アンケート結果について（抜粋） ● 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料（5）及びその議事録 ➢ 2022年度春学期 GPCA 集計結果について（SSI） ● 2022年度授業改善アンケート集計結果 	

1.2 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.2①成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 2022年度 SSI 履修の手引き（HONDANA） ● 2022年度 SSI ガイダンス（オンライン：リアルタイムとオンデマンド） https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/ ● 2022年度 SSI 生共通履修ガイダンス（オンデマンド動画） ● 2022年度履修のポイント（PDF） ● SSI 参画学部ホームページ「成績評価基準及び GPA 制度について」 ● SSI 参画学部ホームページ「成績調査について」 ● 法政大学 Web シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2023&gakubueng=AYA&t_mode=pc ● 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料（2）及びその議事録 ➢ カリキュラム・ポリシーに基づくシラバス第三者確認について ● 2021年度秋学期 GPCA 集計結果について（SSI） ➢ 2022年度第2回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料（9）及びその議事録 ● 2022年度春学期 GPCA 集計結果について（SSI） ➢ 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料（5）及びその議事録 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.3 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.3①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。	はい
1.3②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標に基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.3③学習成果を可視化していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 2022年度 SSI 履修の手引き (HONDANA) ● 2022年度 SSI ガイダンス (オンライン:リアルタイムとオンデマンド) https://www.hosei.ac.jp/ssi/info/article-20220315171202/ ● 2022年度 SSI 生共通履修ガイダンス (オンデマンド動画) ● 2022年度履修のポイント (PDF) ● SSI 参画学部ホームページ「アセスメント・ポリシー」 ● 法政大学 Web シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2023&gakubueng=AYA&t_mode=pc ● 2021年度秋学期 GPCA 集計結果について (SSI) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2022年度第2回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料 (9) 及びその議事録 ● 2022年度春学期 GPCA 集計結果について (SSI) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2022年度第6回 SSI 運営委員会及び質保証委員会資料 (5) 及びその議事録 	

1.4 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.4①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.4②大学評価室による学生調査結果 (入学前アンケート・1年生アンケート・卒業生アンケート) を組織的に利用していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 2022年度第1回 SSI 運営委員会資料 (4) 及びその議事録 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2021年度卒業生向けアンケート集計結果について ● 2022年度第2回 SSI 運営委員会資料 (11) <ul style="list-style-type: none"> ➢ (大学評価室) による卒業生を対象としたアンケート (抜粋) ● 2022年度第1回 SSI 運営委員会資料 (5) 及びその議事録 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2021年度体育会アンケート集計結果について ● 2022年度第1回 SSI 運営委員会資料 (6) 及びその議事録 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 2021年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果 (SSI) について 	

(2) 特色・課題

以下の項目の中で、SSIとして特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。	
【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】 それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。	
【教育課程・教育内容】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供 ・初年次教育・高大接続への配慮 ・学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施 	
特色	初年次教育・高大接続への配慮
<ul style="list-style-type: none"> ● SSI では初年時教育の一環として、保健体育センターが主催する新入体育会学生を対象としたオリエンテーションに SSI 学生専用の時間を設け、SSI 執行部が中心となり入学前ガイダンスを行っている。本ガイダンスには、SSI 科目担当教員も参加 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>(任意) しており、参加した全教員より体育会活動と学業の必要性及び諸注意について伝えている。形式は、新型コロナウイルス感染症を機にオンライン (zoom によるリアルタイムとオンデマンド) で行っており、特にオンデマンドではいつでもその内容を確認できる体制を整えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2024 年度より実施される新カリキュラムにおいて、初年時教育に関わる科目 (スポーツ学入門) を必修科目として導入する予定である (SSI 運営委員会で承認済み)。 	
<p>【教育方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入 (PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等) 授業がシラバスに沿って行われているかの検証 (後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等) 	
特色	<p>教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入 (PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで、学生が主体的かつ能動的に学ぶことができる、効果的な授業形態について、SSI 運営委員会及びカリキュラム委員会で協議してきた。科目の内容や特徴によっては、アクティブラーニングを導入し、その成果は学生アンケートなどから把握している。 2024 年度より実施される新カリキュラムの指針となる、SSI のカリキュラムポリシーでは、学生が能動的に学ぶことができる「アクティブラーニング」を定めている。ポリシーに沿った科目の一つに、少人数で行う「ゼミ形式」を取り入れる予定である。また初年次教育科目として「スポーツ学入門」を検討しているが、SSI 生の修学の特徴を考慮して、開講キャンパス、曜日、時限に影響されない「フルオンデマンド」で実施する予定である。
<p>【学習成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用。 学習成果を把握する取り組み 学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み 	
特色	<p>学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI 運営委員会を定期的に開催し、大学が集計したアンケート結果をもとに一般学生と比較検討し、学習成果について把握している。また学期末に開催される運営委員会の後には、質保証委員会及びカリキュラム委員会を開催し、教育課程及びその内容、方法の改善・向上についても検討している。 また、各学部から選出されている運営委員は、SSI 基礎科目及び専門科目も担当している場合も多いため、学習成果の把握や改善が円滑に行われている。
<p>その他、上記項目以外で SSI として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。</p>	
<p>特色</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI では、キャリア教育の一環として、「アスリートキャリア論」を開講しており、スポーツに関連した様々な業種 (スポーツ政策・行政、NPO 団体、プロアスリートなど) で活躍する方々を講師に招き、現場の紹介や今後の可能性などについて、講義を行ってもらっている。本科目ではその時々合わせた内容や講師の専門性を重視しており、オムニバス形式の授業形態をとっている。 SSI では、SSI 基礎科目及び専門科目について、「対面」で実施することを基本としている。「オンライン」による授業形態の良さは十分であると認識しつつも、SSI 学生は、多くの時間を体育会の練習に費やしており、修学や就職に関する情報などを逸してしまうことが多いため、そのフォローができる。また「対面」で行うことで、生活習慣が維持され、競技においても有用であると考え。とはいえ、学生アンケートからは、「オンライン」授業の要望もあるため、今後も特色である「対面」を維 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

持しつつも、「オンライン」に適した科目を検討していきたい。
課題
<ul style="list-style-type: none"> SSI 生は、参画しているそれぞれの学部（10 学部）に所属しており、所属学部の方針により、成績評価・単位認定がなされている。その一方で、44 単位を SSI 基礎科目及び専門科目で取得しなければならない。卒業単位の約 1/3 に相当する SSI 科目において、その履修状況や成績不振者についての状況を把握することは、学位授与に関して重要な役割であると考えため、SSI 運営委員会では各学部と連携して成績（GPA）について、議論している。しかし、各学生を個々に丁寧に把握できるわけではないため、今後学部と連携して特に成績不振者の把握に取り組んでいきたい。その一つとして、SSI 運営委員会に学習アドバイザーを設置して、学習指導を行うなどの対策を検討していきたい。

2 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

2.1①SSI 内の F D 活動は組織的に行われていますか。	はい
2.1②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022 年度の FD 活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
<p>SSI では FD 活動の一環として、SSI 主催科目を担当する専任教員に対して、授業相互参観を行った。</p> <p>(1) 実施方法</p> <p>SSI 運営委員会において、提供可能な科目を問い合わせ、対象科目を決定したのち、SSI 執行部（委員長、副委員長の 2 名）が参観を行った。</p> <p>(2) 実施時期</p> <p>2022 年 11 月～12 月の間、科目担当教員と相談の上実施した。</p> <p>(3) 授業実施者へのフィードバックなど</p> <p>各参観者により、以下の観点で授業実施者へフィードバック、より良い授業展開に向けた懇談を行った。その後、実施内容を執行部内で共有し、運営委員会で報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じスポーツ科学を取り扱う科目でも、多様な授業展開方法があることを知れたことが最も有意義な点であった。 参観した授業では、用語の具体的な定義を授業冒頭にあえて説明せず、イメージしやすいスポーツや日常生活の場面から入り、少しずつ踏み込んだトピックに触れることで具体化し、理解を深めさせるような形式を用いていた。 今日では学生の主体的な学びが求められており、それに資するヒントも得られた。授業時間の中盤辺りにグループディスカッションを設けるなどがその典型である。 一方、それだけでは学生同士が各グループで意見を共有するに留まってしまう。そこで、インタラクションアプリを活用し、匿名性を保持したまま寄せられた意見を共有したり、授業の最後に簡単な Web テストを実施したりするなど、一定のハードルを課しながらも、学習意欲を内発的に喚起できるような授業環境を整備する重要性も再確認することができた。 <p>(4) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施科目が少なかった。 その理由として、本制度の趣旨や意義を科目担当教員に十分理解してもらえていない可能性が考えられるため、今後 SSI 運営委員会で更なる説明をして周知を図っていく。 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- 実施期間の延長などを検討して、実施科目数を増やす。
- 得られた情報を、今後の SSI 科目にどのように反映できるか、検討を行う。
- 現在、専任教員を対象に実施しているが、兼任講師まで範囲を広げて検討していく。

3 学生支援

(1) 特色・課題

以下の項目の中で、SSI として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。	
【学生支援】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ● 学生の自主的な学習を促進するための支援 ● 学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応 ● 成績不振の学生の状況把握と指導 ● オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等） 	
特色	学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応
<ul style="list-style-type: none"> ● 履修や修学のポイントについて大学ホームページ上に、SSI カリキュラム委員が作成した動画等の資料をあげている。また科目担当教員全員が、オフィスアワーを設けており、学生からの個別の質問や相談に対応している。 ● 修学の継続に困難を抱える学生に対して、対象学生が所属する学部事務を通じて、執行部と連携をとり対応している。また必要に応じて、所属クラブ（体育会）の部長、監督とも連携をとる仕組みを整えている。 	
その他、上記項目以外で SSI として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	<ul style="list-style-type: none"> ● 2022 年度は学生モニター制度を活用して、SSI 学生（9 名）から聞き取りを行い、学生目線で修学環境に関する様々な意見徴収を行う機会を設けている。 ● SSI 運営委員会において、所属クラブごとの GPA を算出して、運営委員に報告している。また必要に応じて、所属クラブ（体育会）の部長、監督とも連携をとる仕組みを整えている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● SSI 学生は、体育会活動の時間が様々であり、また遠征などで海外にでる場合もあるため、学生からの質問や相談など、WEB による SSI 生専用の相談窓口を開設して、広く学修活動を支援する体制づくりを進めていきたい。

III 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	内部質保証	
中期目標	SSI 質保証委員会における実効的な内部質保証を安定化させる。	
年度目標	シラバスチェックを担う第三者委員会と新カリキュラム編成を担うカリキュラム委員会を適宜開催する。	
達成指標	少なくとも、両委員会を各学期中に一度、年度末に一度開催する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	内部質保証として、21 年度につづき、2 名の質保証委員を選出した。主な役割としてシラバスチェックを行い、授業の質担保に努めた。2024 年度から始まる新カリキュラム検討会議（学期末に 1 回実施）にオブザーバーとして参加し、意見も述べてもらった。
	改善策	—

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	1. 新カリキュラムに関係するポリシーを策定する。 2. 各種ポリシーに準じた新カリキュラムの科目とその内容を精査する。	
年度目標	1. 本インスティテュートの抜本的なカリキュラム変更を見据え、カリキュラムポリシーを更新する。 2. 新カリキュラムで開講する科目の候補をまとめる。	
達成指標	1. 現行のカリキュラムポリシーを新カリキュラムに合わせて更新する。 2. 新たなカリキュラムポリシーに準じて、新カリキュラムの基幹科目を策定する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	春学期の運営委員会において、2024年度から開始される新カリキュラムのカリキュラムポリシーを検討した。その結果、現行のカリキュラムポリシーに一部修正加筆することで運営委員会で承認を得た。 また秋学期から現在まで、承認された新カリキュラムポリシーに沿って、カリキュラム委員会で新カリキュラムの具体的な検討が始まった。新カリキュラム策定にあたり、執行部教員による学生との懇談会を実施し、現カリキュラムに関するヒアリングも行った。
	改善策	—
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	1. SSI生が文武両道を実現するための多様な学習方法について検討する。 2. SSI生が主体的に学び、学びを深める上で有用な教授方法を各授業担当教員に周知して実装する。	
年度目標	1. カリキュラム変更と合わせ、オンデマンド授業開講の可能性について検討する。 2. 同一名称科目の授業計画やオンラインを用いた市ヶ谷・多摩共同開講の可能性について検討する。 3. アクティブラーニングを実践している科目担当者よりノウハウを共有してもらおう。	
達成指標	1. オンデマンド授業の長所と短所について精査する。 2. FDミーティングを開催して情報共有する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	本年度の授業方針として、SSIでは独自のルールを設け、原則対面授業を実施した。その中でも、申請のあった科目については、理由を執行部で精査し、オンラインによる開講を認めた。 年度末のカリキュラム委員会において、オンデマンドで実施した科目担当者に意見徴収を行ない、長所・短所を検討した。また、学生モニターに参加した学生からもオンライン授業に関する有用な意見を聴取している。
	改善策	—
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	1. SSI生の学習現状について把握する。 2. SSI生の競技・日常生活においてより実用的な学習内容を検討する。	
年度目標	SSI生を対象としたアンケートを実施して、SSI生の学習状況・成果を把握し、一般学生と比較する。	
達成指標	1. 大学が実施しているアンケートを利用し、SSI生に関する箇所（結果）を抽出して共有する。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	2. SSIに参加している各学部から SSI 生の GPA を共有してもらう。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学内で実施しているアンケートの結果を分析し、運営委員会において共有した。 また年度末の委員会では、各学部から参加している運営委員に、SSI 生の GPA を共有することについて意見徴収を行った。
	改善策	—
評価基準		教員・教員組織
中期目標	1. 新カリキュラムを編成し、運営していくための体制を強化する。 2. スポーツ研究センターおよび所属する教員と連携を強化する。	
年度目標	1. 新カリキュラムについて運営委員会で議題に挙げ、委員から広く意見を募る。 2. カリキュラム委員会を適宜開催し、新カリキュラムの全容を具体化していく。 3. SSI と連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 4. オンライン授業に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。	
達成指標	1. 各運営委員会で新カリキュラムに関する議題を設定する。 2. カリキュラム委員会を定期（各学期 1 回）開催する。追加で適宜開催し、新カリキュラムに関する各種情報を提供してもらう。 3. スポーツ研究センター運営委員会に参加して連携を要請する。 4. 数名の教員にヒアリングを行い、オンライン授業に関する情報を得る。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	定期的で開催した運営委員会（メール審議を除く）において、毎回新カリキュラムに係る議題を設定し、協議した。 また委員会と合わせて、カリキュラム検討委員会を開催し、議論を行った。実際に SSI 科目をオンラインで実施した教員に対して、オンライン授業の効果、成績評価など対面授業との比較に関する意見を徴収し、新カリキュラムに向けて情報を得た。
	改善策	—
評価基準		学生支援
中期目標	1. SSI に参加している各学部や体育会各部と連携を深める。 2. SSI 生を対象としたアンケートを充実させ、SSI 生の学習・競技活動の実態を把握する。 3. SSI 生に向けた新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスを充実させる。 4. SSI 生のキャリア支援について、関係部局と連携して検討する。	
年度目標	1. SSI 生を対象としたアンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. SSI 生のキャリア支援について、関係部局と情報を交換する。 3. アカデミックアドバイザーを設置し、SSI 生の修学を支援する。	
達成指標	1. 運営委員会において、SSI 生を対象としたアンケートの結果を共有する。 2. キャリアセンターと連携し、SSI 生に対して情報を発信する。 3. 各キャンパスの相談室と連携し、SSI 学生に対して情報を発信する。	
教授会執行部による点検・評価		

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度末報告	自己評価	S
	理由	SSI 生（卒業生）に対して実施したアンケートの結果を、運営委員会で共有した。 キャリアセンターに対して、体育会学生に向けた情報発信を依頼し、本年度はアスリートキャリア論で実際に講義してもらった。またキャリアセンター内において専用の窓口を設けている。 SSI 新入生ガイダンスでは、学生相談室について情報発信している。また SSI 生が所属する部単位での相談依頼体制も整っている。
	改善策	—
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		SSI が所有する資源を有効活用する方策について検討する。
年度目標		1. オンライン授業あるいは多摩・小金井キャンパスでの開講について検討する。 2. スポーツ関連学部に関心のある高校生や高校に対して出前授業を行う。
達成指標		1. 引き続き、履修証明プログラムの実施・運営に協力する。 2. 入学センターから情報を得る。
教授会執行部による点検・評価		
年度末報告	自己評価	A
	理由	履修証明プログラムに関しては、学務と連携して広く門戸を開いているが、22年度も受講者がなかった。一方、新カリキュラム編成が進む中で、社会貢献・社会連携に資する科目についても検討を進めている。 高校生及び高校に対しての出前授業については、入学センターと連携して要望があれば、いつでも対応できる体制が整っている。
	改善策	—
【重点目標】 2024 年度にカリキュラム改訂を実施する予定である。発足以来、初めてのカリキュラム変更となるため、これまでの課題を踏まえ、新カリキュラムの骨子を策定する。 【目標を達成するための施策等】 現行のカリキュラムポリシーを見直し、現状と展望に即したカリキュラムポリシーを策定する。		
【年度目標達成状況総括】 2022 年度は、中期目標が 4 年ぶりに改訂された初年時であった。前回の中期目標は 2018 年から 2021 年度までであったが、前回の目標と今回改定した目標との異なる点は、2020 年から継続する新型コロナウイルスの影響により、オンラインによる開講形態が創設され、その運用に関する点であろう。22 年度に大学が定めた授業基本方針は、対面を基本とした一方で、大規模授業を中心にその他、必要に応じてオンライン授業を組み入れる内容であった。それを受けて SSI では、対面授業を基本にすることを各教員に強く要請した。理由は学業と体育会活動の両立を目指すため、生活習慣（教室で講義を受けること）の確立と対面授業にあるメリット（効果）を重視したこと、何よりも学生と教員、学生同士のコミュニケーションを重視したためである。一方で、2024 年度からスタートする新カリキュラム編成も同時に進めてきたが、学生モニター制度を利用して SSI 生から意見を伺った結果、オンライン授業への期待や要望が一定程度あったことも事実である。今年度の評価基準項目のうち、教育課程・学習成果及び教員・教員組織の年度目標には、オンライン授業に関する質保証として、新カリキュラムに向けたオンライン導入を検討すると目標を掲げており、ほぼ達成できている。また新カリキュラムに向けての準備も整ってきている。学生支援については、前年度から引き継いでいるキャリアセンター、学生相談室		

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

との連携も滞りなく進んでいる。課題としては、社会貢献・社会連携について、目標を達成するために執行部を中心にさらなる努力とアイデアが必要である。

IV 2023 年度中期目標・年度目標

評価基準	内部質保証
中期目標	SSI 質保証委員会における実効的な内部質保証を安定化させる。
年度目標	1. シラバスチェックをも担う質保証委員会とカリキュラム委員会を適宜開催する。 2. 内部質保証を安定させるため、質保証委員についての見直しを行う。
達成指標	1. 各学期末に行う、運営委員会に合わせて両委員会を開催する。 2. 質保証委員会において、質保証委員の役割について再検討し、運営委員会に諮る。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	1. 新カリキュラムに関係するポリシーを策定する。 2. 各種ポリシーに準じた新カリキュラムの科目とその内容を精査する。
年度目標	1. 新カリキュラムに向けて改訂したポリシーを最終決定する。 2. カリキュラムポリシーに沿って新カリキュラムを確定し、基礎・専門科目を決定する。
達成指標	新カリキュラムに向けて改訂したポリシーに沿って、基礎科目及び専門科目を確定する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	1. SSI 生が文武両道を実現するための多様な学習方法について検討する。 2. SSI 生が主体的に学び、学びを深める上で有用な教授方法を各授業担当教員に周知して実装する。
年度目標	1. 新カリキュラムにおけるオンライン授業のあり方を検討し、実施に関わる要件をまとめる。 2. カリキュラム変更に合わせて、アクティブラーニングに適した少人数科目を検討する。
達成指標	1. オンデマンド形式に適した科目を選定し、オンデマンドの特性を活かした開講について具体的に検討する。 2. 演習をはじめとする少人数科目の開講について検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	1. SSI 生の学習現状について把握する。 2. SSI 生の競技・日常生活においてより実用的な学習内容を検討する。
年度目標	1. SSI 生を対象にアンケートを実施し、学習状況及び学習成果を把握する。 2. SSI 生が所属する各学部と連携して GPA を共有してもらい、学習成果を把握する。
達成指標	1. 大学が実施するアンケートを利用して、SSI 生に関するデータを抽出し、運営委員会で共有する。 2. 一般学生のアンケート結果を参考に、SSI 生の現状について運営委員会で共有する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	1. 新カリキュラムを編成し、運営していくための体制を強化する。 2. スポーツ研究センターおよび所属する教員と連携を強化する。
年度目標	1. 学内のスポーツに関わりのある教職員に新カリキュラムの運営協力を依頼する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	2. 新カリキュラムのポリシー及びカリキュラム内容を、SSI 参画学部に関連のある教職員に協力を依頼する。
達成指標	1. スポーツ健康学部教員をはじめとする、SSI 参画学部以外のスポーツに関連のある教職員に協力を依頼する。 2. SSI 参画学部教授会を通じて、科目担当者に依頼する。
評価基準	学生支援
中期目標	1. SSI に参加している各学部や体育会各部と連携を深める。 2. SSI 生を対象としたアンケートを充実させ、SSI 生の学習・競技活動の実態を把握する。 3. SSI 生に向けた新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスを充実させる。 4. SSI 生のキャリア支援について、関係部局と連携して検討する。
年度目標	1. 学生を対象とした各種アンケートの集計結果を各学部教員と共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局（キャリアセンターなど）と連携する。 3. アカデミックアドバイザーを設置し、SSI 生の修学を支援する。 4. SSI 生が抱える様々な問題に対応するため、学生センター（学生相談室を含む）と連携を深める。
達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 大学キャリアセンターと連携し、SSI 学生に対して情報を発信する。 3. 体育会の部長・監督連絡会を通じて、学生の修学に関してサポートを依頼する。 4. 各キャンパスの相談室と連携し、SSI 学生に対して情報を発信する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	SSI が所有する資源を有効活用する方策について検討する。
年度目標	1. 新カリキュラムに向けて、オンデマンド授業の導入について検討し、履修証明プログラム（科目履修生）の活性化を目指す。 2. スポーツ関連学部に関心のある高校生及び高校に対して出前授業を行う。 3. 千代田区コンソーシアムと連携して、SSI 科目の拠出を検討する。
達成指標	1. 履修証明プログラムの実施・運営に協力する。 2. 入学センターと連携し、情報を得る。 3. 関連部署と連携し、科目の拠出について検討する。
<p>【重点目標】</p> <p>1. 2024 年度から運用する新カリキュラムについて、これまでの議論を踏まえて最終調整を行う。</p> <p>2. 学生支援の充実化に向けて、実効可能な方策を検討する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>1. 新カリキュラムのカリキュラムポリシー及びカリキュラムツリーを確定する。</p> <p>2. カリキュラムポリシーに沿った新カリキュラムの科目を確定する。</p> <p>3. オンライン（特にオンデマンド）に適した科目を選定し、運用の是非について具体的に検討する。</p> <p>4. 新カリキュラムについて関係部局に依頼し、SSI 生ガイダンス及び SSI 関連ホームページを通じて周知する。</p>	

【大学評価総評】

SSI は、優れたスポーツ能力を持つ者が特別推薦入学試験を通じて入学するという、複

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

数学部にわたるインスティテュートであり、その目的は、競技力のある学生に対して、スポーツを科学のおよび文化的な観点から理解することができる教育プログラムを提供することである。そのために SSI は、スポーツ科学専門の科目と各学部が提供する様々な科目を組み合わせたカリキュラムを運用しているが、ここ最近では新カリキュラムの実施に向けて着実に準備を重ねてきており、いよいよ 2024 年度に実施される。今後はこれらの取り組みの成果を評価し、改善策を検討する仕組みが必要となるであろう。また各学部の教員からなる組織で、それぞれの学部での業務に追加する形での様々な SSI 学生支援が行われていることも評価できるであろう。

自己点検・評価書類にて、課題として今後改善に取り組んでいきたいものとして、「SSI 運営委員会に学習アドバイザーを設置して、学習指導を行うなどの対策を検討していきたい」を挙げている。この対策について、2022 年度の総評でも言及されており、おそらく継続課題と考えられるので、引き続き検討が望まれる。また 2022 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況にて、2022 年度の総評にて指摘されていた「一般学生と SSI 生の交流を図ることにも努めたい」と回答しているが、2023 年度での重点目標等には含まれていない。今後、具体的な目標の設定が望まれる。

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023 年度自己点検・評価シートに記載された II 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を 確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
< 法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目 >	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。